

# P D C A サイクルの確立を目指した学校評価

札幌市立八軒中学校

## I はじめに

### 1 本校における学校評価のねらい

本校は、平成16年度から学校評価に取り組んできた。当初は、どのようなことを行うのが適切なのか検討している段階であったため、実際に学校評価アンケートを実施していく中で研究していくこととした。

これまでも、年度末に教職員のみで校務反省は行ってきた。しかしこれだけでは広く学校教育活動全体を見つめ、学校改善を進めることは難しく、そこに学校にかかわる方々からの思いを十分に取り込んでいるとは考えにくい。

そこで、より多くの方々からアンケートをとり、その結果や推移を検討していくことを考えた。そして、この結果を分析し、それを次年度の計画に生かし、検証していくこととした。このようなサイクルはこれまで本校にはなかったものであり、システム確立に重点を置いて取り組んできた。

なお、アンケートは、生徒をはじめ保護者、教職員、地域（評議員・学校医・学校薬剤師）を対象とし、これまでは年1回実施してきた。

### 2 昨年度の学校評価をもとにした改善点

このような中、文部科学省から学校評価システム構築事業の研究委託を受け、昨年度作成した「自己評価書」「学校関係者評価書」の改善策やそれに向けての意見を基に、今年度の推進計画に生かすようにしてみた。さらに今年度は中期アンケート調査を実施し、それをもとに年度末アンケートに向けて日常実践をしていくように工夫した。

## II 学校評価の体制

### 1 学校評価委員会と自己評価

本校においては、教頭と各校務部会代表を構成メンバーとする学校評価委員会を組織している。年間7回ほど委員会を開催し、アンケート実施方針や項目の検討、集計、分析作業を行っている。そして、その分析を基に「自己評価書」を作成し、職員会議に提案し、全教職員で検討を行っている。

### 2 学校関係者評価委員会

また、学校関係者評価委員会は昨年度から設置しており、職員会議で了承を得た「自己評価書」に対し、その取組の適切さを評価し、コメントする「学校関係者評価書」を作成している。

### Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	自己評価			学校関係者評価
	学校（教職員）	生徒	保護者・地域	学校関係者評価委員会
4月	学校経営方針の決定 前年度反省に基づく推進計画作成 (反省項目検討も含む) 第1回学校評価検討委員会			
5月	学年PTAで経営方針の説明 第2回学校評価検討委員会			第1回学校関係者評価委員会
6月	学校公開日（3日間） 第3回学校評価検討委員会		学校公開日（3日間）	学校公開日（3日間）
7月	中期アンケート実施 第4回学校評価検討委員会 前期校務反省	中期アンケート実施	中期アンケート実施	中期アンケート実施
8月				
9月	アンケート結果の分析 学校祭			
10月	学校公開日（3日間） 第5回学校評価検討委員会 合唱コンクール		学校公開日（3日間）	学校公開日（3日間）
11月	第6回学校評価検討委員会 アンケートの分析結果への改善策 の作成 前期校務反省検討職員会議 中期アンケート分析発表			
12月				
1月	年間アンケート実施 学校公開日（3日間） 第7回学校評価検討委員会 後期校務反省	年間アンケート実施	年間アンケート実施 学校公開日（3日間）	年間アンケート実施 学校公開日（3日間）
2月	アンケート結果の分析 第8回学校評価検討委員会 後期校務反省職員会議 「自己評価書」の作成			
3月	「自己評価書」の公表 第9回学校評価検討委員会 「学校関係者評価書」を基に改善 策の作成			第2回学校関係者評価委員会 「学校関係者評価書」の 作成・公表

## IV 学校評価の方法

### 1 自己評価

#### (1) 項目の設定

昨年度の学校評価の質問項目については、文部科学省より出されている「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」を基本として、見直し作業を行ったが、今年度は、再度、各アンケート対象に対する質問項目を見直すとともに、次のように設定した。さらに、今年度は2度アンケートを実施したが、それぞれのアンケート項目は結果を比較する必要があることから変更しなかった。なお、本校独自に設定した項目は下線\_\_\_\_\_を引いた。

#### ●保護者への質問（11問）

##### ① 教育課程・学習指導

・指導目標、指導計画、授業時数などの教育課程編成・実施の状況 ・説明、板書、発問など、各教員の授業の指導方法 ・観点別学習状況の評価及び評定の客観性、信頼性の確保状況

##### ② 生徒指導

・教育相談体制の整備状況 ・家庭・地域社会・関係機関等との連携状況

##### ③ 進路指導

・進路相談の実施状況

##### ④ 安全管理

・危機管理マニュアル等の作成、活用状況

##### ⑤ 保健管理

・心のケアの体制の整備状況や健康相談活動、薬物乱用防止教室の実施状況  
・日常の健康観察や疾病予防、子どもの自己健康管理能力向上のための取組の状況

##### ⑨ 保護者、地域住民等との連携

・学校開放などの実施状況 ・情報提供の実施状況

#### ●地域への質問（10問）

・保護者と同じ内容。「④ 安全管理」は削除。

#### ●生徒への質問（9問）

##### ① 教育課程・学習指導

・生徒による授業評価の結果 ・観点別学習状況の評価及び評定の客観性、信頼性の確保状況

##### ② 生徒指導

・豊かな人間関係づくりや規範意識の向上等に向けた指導の状況 ・教育相談体制の整備状況

##### ③ 進路指導

・進路相談の実施状況

##### ④ 安全管理

・危機管理マニュアル等の作成・活用状況

##### ⑤ 保健管理

・心のケアの体制の整備状況や健康相談活動、薬物乱用防止教室の実施状況  
・日常の健康観察や疾病予防、子どもの自己健康管理能力向上のための取組の状況

#### ●教職員への質問（42問）

##### ① 教育課程・学習指導

- ・指導目標、指導計画、授業時数などの教育課程編成・実施の状況
- ・生徒の観点別学習状況の評価及び評価の結果
- ・視聴覚教材や教育機器などの教材、教具の整備と活用状況
- ・体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習の促進状況
- ・個に応じた指導の充実
- ・観点別学習状況の評価及び評定の客観性、信頼性の確保状況
- ・授業研究の実施状況
- ・道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間
- ② 生徒指導
  - ・生徒指導体制の整備状況
- ③ 進路指導
  - ・進路指導体制の整備状況
- ④ 安全管理
  - ・学校安全計画等の作成・実施計画
  - ・危機管理マニュアル等の作成・活用状況
- ⑤ 保健管理
  - ・心のケアの体制の整備状況や健康相談活動、薬物乱用防止教室の実施状況
  - ・日常の健康観察や疾病予防、子どもの自己健康管理能力向上のための取組の状況
  - ・家庭や地域の保健関係機関との連携状況
  - ・学校給食
- ⑥ 特別支援教育
  - ・校内支援体制の整備状況
  - ・交流及び共同学習の実施状況
  - ・個別の指導計画及び教育支援計画の作成状況
  - ・医療、福祉等の関係機関との連携状況
- ⑦ 組織運営
  - ・学校の明確な運営、責任体制の整備状況
  - ・経理の状況
  - ・学校事故への対応状況
  - ・情報管理の状況
- ⑧ 研修
  - ・校内における研修の実施体制の整備状況
  - ・校内研修の課題の設定状況
  - ・校内、校外研修の実施状況
- ⑨ 保護者、地域住民等との連携
  - ・PTA、地域団体との連絡の充実状況
  - ・学校運営への保護者、地域住民の参画及び協力の状況
  - ・小中連携、中高連携など学校間の円滑な接続に関する工夫の状況
- ⑩ 施設・整備
  - ・施設・設備の効果的な活用状況
  - ・学習・生活環境の充実のための取組状況

なお、以前自由記述欄を設けていたが、個人にかかわる内容や要望が書かれていたことがあったので、一昨年度のアンケートから一切の自由記述欄を設けていない。

## (2) 生徒・保護者・地域・教職員へのアンケートの実施

前項の項目をより具体的な質問にしてアンケートを実施している。以前アンケート用紙は普通紙に印刷し、同時に配布した回収用の封筒に入れて提出してもらっていた。選択肢は「①よくあてはまる」「②ややあてはまる」「③あまりあてはまらない」「④まったくあてはまらない」の4段階である。判断がつかないものは未記入でもよいものとした。しかし、選択欄を無視し、曖昧な回答も相次いだ。

昨年度から、直接質問が印刷できるマークシート用紙にアンケート用紙を切り替えた。そのためか、曖昧な解答は激減し、さらには保護者向けのアンケート回収率も71.7%→83.1%→84.0%と向上した。なお、マークシート用紙がA

4版のため、回収の際に折れ曲がるのを防ぐため、読み取りに影響のない半分に折った状態で回収用封筒に入れて提出してもらっている。その他の回収率は、生徒：93.0%→96.0%→97.9% 教職員：37.5%→94.6%→91.9%となっている。

### (3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

読み取りにはドキュメントスキャナを使用し、集計にはマークシート用紙販売元配布のフリーソフトを利用し、結果を表計算ソフトに取り込んで集計、グラフ化した。

分析は、過去3年間分の同様の内容の質問項目同士を比較するグラフをつくりさらには、保護者、生徒、教職員に向けた同様の内容の質問項目同士も比較しながら、質問項目を作成したそれぞれの項目に関する校務分掌担当者が分析を行った。それぞれの質問に「達成状況」と「取組の適切さ」を「A：十分である」「B：おおむね十分である」「C：不十分である」「D：改善を要する」の4段階で評価し、改善策も一つ一つの質問に対して作成した。ただ、中期アンケートの結果については、特に周知したい2項目にしぼり、簡潔に学校だよりでお知らせとして配布した。

### (4) 改善策の検討

改善策については、現時点で考えることができるものをあげた。この段階では自己評価段階であるため、学校関係者評価委員会で作成される学校関係者評価書の意見を参考に、より具体的な改善の方策を練ってきた。

## 2 学校関係者評価

### (1) 学校関係者評価委員の構成と役割

本校では、この学校評価を始めると同時に学校評議員会を設置した。学校関係者評価委員会が設置されていなかった一昨年度までは、学校評議員会に学校評価の集計結果や分析結果を説明し、意見をいただいていた。なお、学校評議員には、現役も含めた歴代PTA会長および役員に委嘱している。

昨年度から新たに学校関係者評価委員会を設置し、学校評議員を中心に地区センター館長を含めた7名に委嘱している。

### (2) 学校関係者評価書の作成

外部評価委員には「自己評価書」に対して、「自己評価の適切さ」「改善に向けた取組の適切さ」をA・B・C・Dの4段階で評価していただき、質問項目ごとに意見を記述していただいている。

この学校関係者評価書をもとに、各校務で来年度に向けての課題を検討し、推進計画を作成する段階でそれを生かしている。

## V 評価結果の公表

### 1 公表の方法

本校においては、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

- ・学校だより「特別号（自己評価書・学校関係者評価書）」
- ・本校ホームページ（上記学校だよりをPDFファイルとして掲載したもの）  
(URL <http://www.hachiken-j.sapporo-c.ed.jp/> のメニューより「学校評価」をクリック)

なお、一昨年度までは、本校においては「自己評価書」や「学校関係者評価書」は作成されておらず、学校だより「特別号」として、保護者（地域を含む）と生徒のアンケート集計結果に対して、別々に分析して文章で表し、その総括的な改善策

を載せていた。また、保護者（地域を含む）と生徒だけのアンケート集計結果すべてをグラフ化して、資料として掲載していた。同じようなアンケート項目の比較は行わず、教職員向けのアンケート結果は、掲載していなかった。

昨年度からは、「自己評価書」「学校関係者評価書」の形で教職員向けの結果や三者の比較を含めた形で細かな分析を掲載している。

## 2 公表の効果

本校においては、公表した結果に対して広く意見を募集するようにしている。保護者向けに学校だよりを配布すると同時に、それに対して意見・感想を記入する用紙を配布している。これも無記名で古封筒に入れて提出していただいている。例年あまり多くはないが、肯定的なご意見や、否定的な感想を寄せていただいている。

## VI 他地域における学校評価

### 1 愛知県東海市立上野中学校・平洲中学校の学校評価

東海市では、3小学校2中学校で学校評価システム構築事業に参画している。この5校でアンケート項目を調整し、共通のアンケート項目を各校間で比較できるようにしている。また、地域へのアンケートは、入学前の児童保護者を対象としている。さらには、管理職に対する評価項目も設定している。

### 2 名古屋市立昭和橋中学校の学校評価

名古屋市では平成14年度から2年間実施の文部科学省、名古屋市教育センター委嘱事業「学校評価システム確立に関する調査研究」等を踏まえた学校評価を実施している。第三者評価にも取り組み、生徒、保護者評価からはさらなる努力を積み重ねて、「分かる授業」に向けた実践を進めている。

## VII 成果と課題

今年度の学校評価の取組においては、次のような成果と課題を得た。

まず成果として、今年度も「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」の学校評価事業運営委員会に参加して、本校ではいろいろな資料を基にアンケート項目を設定してきたが、「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」を基軸として設定したので、学校評価全般にわたる項目は網羅することができたと考えている。また、今年度は初めて2度のアンケートを実施し、中間評価を行うことで、今年度内の変容を見ることができたとし、年度当初の推進計画の中に昨年度の反省を生かした内容を具体的に盛り込むこともできたと考えている。

また課題としては、昨年と同様ではあるが、実際にとったアンケート結果をどのように分析し、それをどのような形で次年度に引き継いでいくのがよいかを検討しやすくすることがあげられる。そして何よりも、アンケート結果を真摯に受け止めながら、数値だけを見て善し悪しを決めるのではなく、数値だけでは判断できないことをどのように読み取り、それをどのように反映していくことが一番大切であると考えている。どうすることが今後本校の教育活動にとってよいのかを、総合的に判断していかなければいけないと考える。

### 【参 考 文 献】

- ・「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」 文部科学省

【資料】

アンケート用紙（保護者用マークシート）



アンケート用紙（生徒用マークシート）



先生の指示にしたがって上記の項目のあなたの考えるところにマークしてください。マークには鉛筆を使ってください。  
 『答えにくいもの』『わからないもの』は無理に答える必要はありません。  
 鉛筆を書く必要はありませんが、自分の学年にマークをしてください。記入が終わったら、担当の先生に提出してください。

ですが、上記の項目について、該当する欄にマークには鉛筆をお使いください。『答えにくいもの』『わからないもの』は無理に答える必要はありません。鉛筆を書く必要はありませんが、自分の学年にマークをしてください。記入が終わったら、担当の先生に提出してください。

アンケート用紙  
（教職員用マークシート）



記入したら、ホームページのところに記入してください。

マークには鉛筆を使ってください。  
 『答えにくいもの』『わからないもの』は無理に答える必要はありません。

